

ワンダーを読んで

ハーウッド星

この本の主人公は、オーガスト（通称オギー）という名前の十才の男の子です。彼には生まれつき下がく顔面異骨症という障害があり、人に怖がられたり、ギョッとされたりします。実は私も生まれつき口が裂という障害があり、整形手術を受けたことがあります。オギーと違う所は、私の整形手術は一回だけです。口の中の障害だったので、外見からは一切わかりません。しいて言えば少し歯並びが悪いくらいです。もし私がオギーみたいに顔面の障害があったら、私は学校に通わずにずっとホームスクールで勉強していたと思います。だから、十才から学校に通い出したオギーは勇気があるなと思いました。

もし私の周りにオギーみたいな子がいたら、私はどんな態度を取っただろうと考えてみました。私はサマーみたいに自分から話しかけられないだろうし、ジャックみたいに校長先生からオギーと仲良くしてあげてと頼まれても、素直に行動できなかったと思います。もちろんジュリアンみたいに「なんでそんな顔なんだ。」とストレートに聞くこともできません。怖いからだと、話しかけもせずにただただ関わらないようにしていたと思います。だから、ジュリアンも決してひどいいじわる者とは言えないかもしれません。話しかけられない私のような人の方がよっぽどいいじわるかもしれません。

私はこの本の登場人物の中で誰になりたいかと聞かれたら、サマーになりたいです。サマーはクラスのみんなが見ている目の前でも積極的にオギーに声をかけていたからです。ブラウン先生が言っていた「正しいことをするか、親切なことをするか。どちらか選ぶときには親切を選べ。」をちゃんと実行していたと思います。私もサマーみたいに、人の気持ちをまず考えて、人に親切にできるようにになりたいなと思いました。

オギーは不幸な外見を持っていますが、いつもオギーのことを最優先に考え、愛してくれる両親を持ち、自分の事は我慢して弟を一番に支えてくれるお姉ちゃんも、オギーの顔なんて気にしないでペロペロなめてくる犬のデイジーもいます。学校でも、ジャックとサマーと仲良くなって、顔以外ではとても幸せなかん境にいると思います。一方、サマーにはお父さんがいません。ジャックの家は少し貧ぼうです。ミランダの両親はりこんしています。ジャスティンが言っていた「世界は結局差し引きすると公平になる。」とは本当の事だなど思いました。オギーも自分だけが不幸と思わずに、周りからの愛情と友情に感謝して強く生きていって欲しいと思います。